

町横尾遺跡Ⅲ

—長野県埴科郡坂城町宅地造成に係る緊急発掘調査報告書—


2012.3

坂城町土地開発公社
坂城町教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野県埴科郡坂城町における宅地造成事業に伴う町横尾遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。
- 2 町横尾遺跡Ⅲの発掘調査は、坂城町土地開発公社より委託を受け、坂城町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査所在地及び面積
町横尾遺跡Ⅲ 長野県埴科郡坂城町大字南条4745-1 約131㎡
- 4 調査期間 現地調査 平成23年7月5日～平成23年7月21日
整理調査 平成23年7月21日～平成24年2月3日
- 5 本書の執筆・編集は、助川・時信が行った。
- 6 本書の作成にあたり、助川・時信のほか、朝倉、天田、坂巻が主な作業を行った。
- 7 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略号は、下記のとおりである。
SH→竪穴住居址 ST→掘立柱建物址 SK→土坑址 Q→特殊遺構 P→ピット
- 2 遺構名は、時代別ではなく発掘調査時においての命名順である。
- 3 本書に掲載した実測図の縮尺は該当箇所のスケールの上に記した。
- 4 挿図中におけるスクリーントーンは、下記を示す。
遺構 →地山
- 5 遺物の挿図中での表記は、第1図1は、簡易的に1-1と表記した。
- 6 土層の色調は『新版 標準土色粘』の記載に基づいている。
- 7 出土遺物の観察表の法量は、口径・底径・器高の順に記載し、-は不明、()が残存値、< >が推定値、()・< >がない場合は完存値を示し、単位はcmである。

目 次

例 言

凡 例

第 I 章 発掘調査の経緯	2
第 1 節 発掘調査に至る動機と経緯	2
第 2 節 調査の構成	3
第 3 節 調査日誌	3
第 II 章 遺跡の立地と環境	4
第 1 節 地理的環境	4
第 2 節 歴史的環境	4
第 III 章 調査の概要	8
第 1 節 調査の方法	8
第 2 節 基本層序	9
第 3 節 検出された遺構・遺物	9
第 IV 章 調査の結果	11
第 1 節 竪穴住居址	11

報告書抄録

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る動機と経緯

町横尾遺跡は、坂城町大字南条に所在し、標高420m前後を測る谷川によって形成された扇状地の扇央部に位置している。平成元年度に作成された「坂城町遺跡分布図」によると、縄文～平安時代の集落址とされてはいるが、同遺跡内に戦国時代の国人領主村上義清の子にあたる村上景国が拠ったとされる観音坂城跡も存在しており、関連する中世の遺構の存在が予想されるなど、原始～中世の遺跡である可能性が高い。平成8年度に実施された宅地造成事業にともなう発掘調査及び平成19年度に実施された道路改良事業に伴う発掘調査によって、縄文～古代に位置づけられる集落址が判明している。

今回、この地に坂城町土地開発公社による宅地造成が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じた。そのため、原因者である坂城町土地開発公社と遺跡の保護措置について協議を行ったところ、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなり、平成23年5月26・27日に試掘調査を実施した。開発対象地に2本のトレンチを設定して遺構・遺物の確認を行った結果、1箇所の特レンチで遺構が検出された。この結果を基に再度協議した結果、確認された遺構に関しては発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することとなった。



第1図 町横尾遺跡III位置図 (1 : 25,000)

第2節 調査の構成

発掘調査体制

調査担当者 助川朋廣（坂城町教育委員会学芸員）、時信武史（坂城町教育委員会学芸員）

調査補助員 赤池利博、朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子（以上、町臨時職員）

整理調査体制

調査担当者 助川朋廣（前出）、時信武史（前出）

調査補助員 朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子（以上、町臨時職員）

（事務局）

教育長	長谷川臣
教育文化課長	中沢惠三（～平成23年9月30日） 柳澤 博（平成23年10月1日～）
文化財係長	助川朋廣
文化財係	時信武史 中沢あつみ、山岸紀美子

第3節 調査日誌

発掘調査

平成23年7月5日	発掘調査開始。重機による表土剥ぎ及び遺構検出。
平成23年7月6日	遺構掘り下げ開始。
平成23年7月19日	遺構掘り下げ終了。
平成23年7月20日	遺構実測終了。
平成23年7月21日	埋め戻し。発掘調査終了。

平成23年度中整理作業及び報告書作成。



作業風景（南東より）

第二章 坂城町の遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接合部にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭い地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は6、7ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の土器彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された透光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林 1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上。

地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡（1-8）が目目される。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開畝遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡（44）がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林 1999）。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史上に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが窺われる。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告』1979『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告』1993『宮上遺跡Ⅱ』1995『東山遺跡』1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺裏遺跡・東町遺跡』1996『寺浦遺跡Ⅱ』2000『開畝遺跡Ⅱ』2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』2002『坂城遺跡Ⅱ』
- 関 孝一 1966『長野県地科部埋蔵文化財調査報告』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 隆ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998『第5期 開畝遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター
- 若林 暁 1999『第9巻 東平古墳群』『第11巻 観音平経塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター



板城町遺跡分布図

図書館番号	書 名	種 別	注 記
1	南条通辞書	集英社	物生一平史
-1	南条通辞書	集英社	物生一平史
-2	南条通辞書	集英社	物生一平史
-3	南条通辞書	集英社	物生一平史
-4	南条通辞書	集英社	物生一平史
-5	南条通辞書	集英社	物生一平史
-6	南条通辞書	集英社	物生一平史
-7	南条通辞書	集英社	物生一平史
-8	南条通辞書	集英社	物生一平史
2	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
-1	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
-2	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
-3	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
3	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
-1	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
-2	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
-3	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
4	藤十哲史	吉 澤	吉澤
5	延喜式	延 喜	中 世
6	町屋通辞書	吉 澤	織文一平史
7	北野古墳	吉 澤	吉澤(後編)
8	中之島通辞書	集英社	織文一平史
-1	中之島通辞書	集英社	織文一平史
-2	中之島通辞書	集英社	織文一平史
-3	中之島通辞書	集英社	織文一平史
-4	中之島通辞書	集英社	織文一平史
-5	中之島通辞書	集英社	織文一平史
-6	中之島通辞書	集英社	織文一平史
9	鹿島第六古墳(第六古墳)	吉 澤	吉澤(後編)
10	谷川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-1	谷川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-2	谷川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
11	人権通辞書	集英社	平 史
12	谷川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
13	藤原通辞書	吉 澤	中世一古史
14	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
15	山崎通辞書	集英社	織 文
16	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
17	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-1	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-2	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-3	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-4	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-5	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-6	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-7	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-8	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-9	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-10	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-11	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-12	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-13	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
-14	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
18	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
19	柳屋川古墳群	吉 澤	吉澤(後編)
20	藤原通辞書	集英社	物生一平史
21	藤原通辞書	集英社	物生一平史
22	人権通辞書	集英社	吉澤(後編)
23	関ヶ原通辞書	集英社	織文一平史
24	比久通辞書	集英社	吉澤一平史
25	入道通辞書	集英社	吉澤一平史
26	藤原古墳(柳屋川古墳)	吉 澤	吉澤(後編)
27	金井西遊辞書	集英社	織文一平史
28	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
29	山崎通辞書	集英社	織文一平史
-1	山崎通辞書	集英社	織文一平史
-2	山崎通辞書	集英社	織文一平史
-3	山崎通辞書	集英社	織文一平史
-4	山崎通辞書	集英社	織文一平史
-5	山崎通辞書	集英社	織文一平史
31	日名沢通辞書	集英社	物生一平史
-1	日名沢通辞書	集英社	物生一平史
-2	日名沢通辞書	集英社	物生一平史
32	土井ノ入通辞書	集英社	物生一平史
33	平林通辞書	集英社	織 文

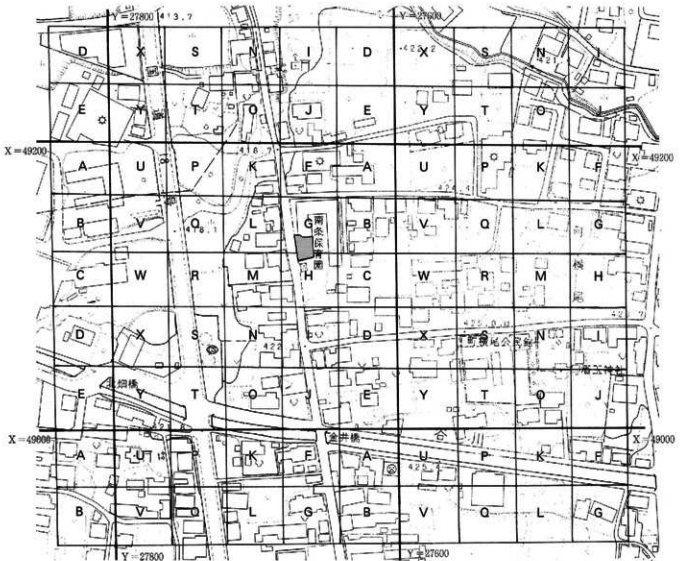
図書館番号	書 名	種 別	注 記
34	坪内通辞書	集英社	平 史
35	平河通辞書	集英社	吉澤(後編)
36	和乎通辞書	集英社	織文一平史
-1	和乎通辞書	集英社	織文一平史
-2	和乎通辞書	集英社	織文一平史
-3	和乎通辞書	集英社	織文一平史
37	金共通辞書	集英社	吉澤(後編)
38	村上通辞書	集英社	吉澤(後編)
39	馬の貴通辞書	集英社	吉澤(後編)
40	北日名通辞書	集英社	吉澤(後編)
41	北日名第六古墳群	集英社	吉澤(後編)
-1	北日名第六古墳群	集英社	吉澤(後編)
-2	北日名第六古墳群	集英社	吉澤(後編)
42	梅ノ木通辞書	集英社	吉澤(後編)
43	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
44	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
45	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
-1	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
-2	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
-3	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
-4	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
-5	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
-6	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
-7	出雲古墳群	集英社	吉澤(後編)
46	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
47	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
-1	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
-2	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
-3	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
48	小野通辞書	集英社	物生一平史
49	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
50	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
51	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
52	三木通辞書	集英社	吉澤(後編)
53	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
54	山崎通辞書	集英社	吉澤(後編)
55	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
56	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
57	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
58	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
59	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
60	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
61	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
62	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
63	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
64	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
65	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
66	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
67	中之島通辞書	集英社	吉澤(後編)
68	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
69	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
70	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
71	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
72	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
73	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
74	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
75	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
76	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
77	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
78	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
79	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
80	村上通辞書	集英社	吉澤(後編)
81	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
82	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
83	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
-1	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
-2	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
-3	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
84	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
85	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
86	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
87	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
88	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
89	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)
90	藤原通辞書	集英社	吉澤(後編)

第三章 調査の概要

第1節 調査の方法

本遺跡の調査では、調査区の遺構・遺物の正確な位置を記録でき、なお、将来的に周辺で実施される遺跡の発掘調査での遺構・遺物の調査にも整合できるように、平成14年4月施行の世界測地系2000の座標軸を基にグリッドを組んだ。

グリッドについては、200m×200mの大グリッドを設け区画を行い、その中を40m×40mに25等分した中グリッドを設定(第3図)し、北東端より「A・B・C…Y」区とアルファベットの大文字で命名した。本調査ではG・H区が発掘調査の対象グリッドである。また、その中グリッドを4m×4mの小グリッドで100区画に分割し、南北列を北から算用数字で「1・2・3…10」、東西列を東から五十音順で「あ・い・う…こ」と呼称することとした。例えば、その中の北東交点を「Oグリッド」というように命名し、調査に係るグリッドの呼称は例えば「Oあ1グリッド」とし、遺物の取り上げや遺構図の作成の基準とした。また、発掘調査における遺構の実測は、基本的に1/20を基準として簡易遺り方実測にて行った。

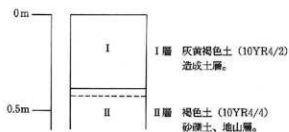


第3図 町横尾遺跡Ⅲ発掘調査区設定図(1:2,500)

第2節 基本層序

本調査区の基本層序は右図に柱状図を示したとおりである。Ⅰ層は灰黄褐色土層で、造成土層である。Ⅱ層は砂礫を多く含む褐色の土層で、地山である。

以上が本調査区の基本層序であるが、造成土層は場所によって厚さが異なった。



第4図 基本層序模式図

第3節 検出された遺構・遺物

本調査によって検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

遺構)

奈良・平安時代 竪穴住居址 1棟

遺物)

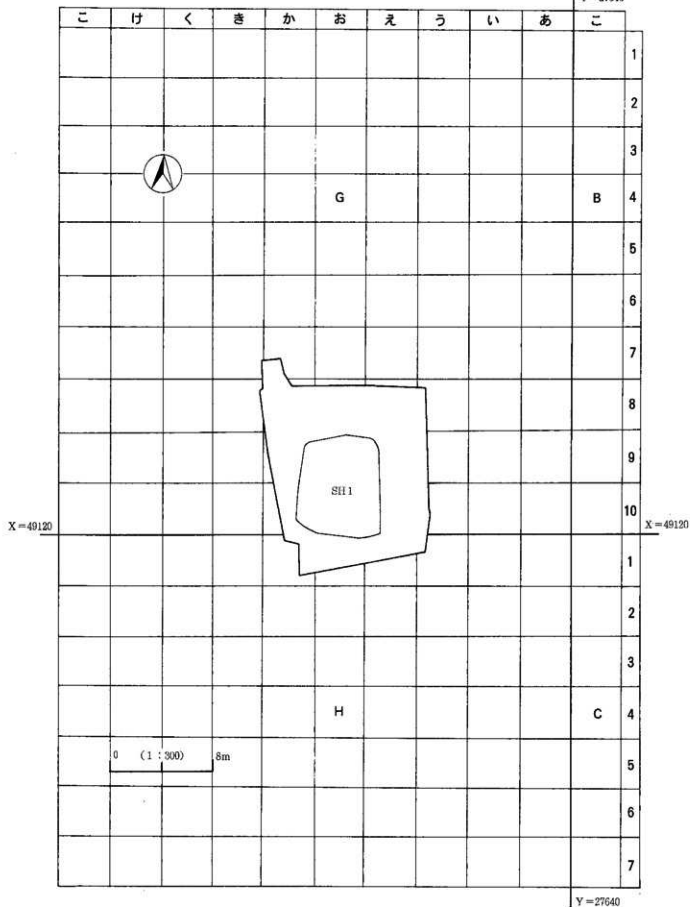
奈良・平安時代 土師器・須恵器



完掘状況 (南より)



完掘状況 (北より)



第5図 町横尾遺跡Ⅲ遺構配置図(1:300)

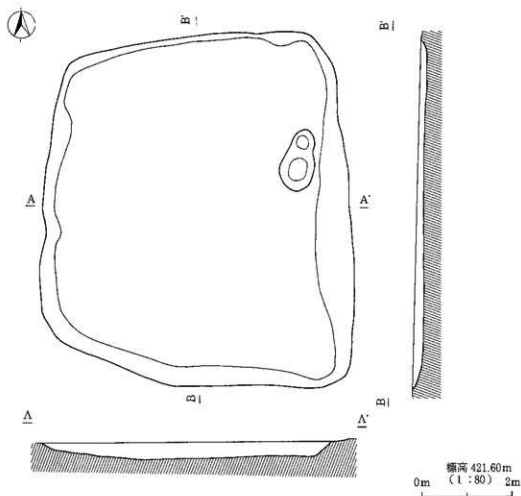
第四章 調査の結果

第1節 竪穴住居址

(1) 1号住居址

遺構 (第6図)

検出位置：Gえ9、Gえ10、Gお10、Gお9、Gか9、Gか10、Hお1、Hえ1グリッド。重複関係：遺構上面は削平されており、江戸時代以降の攪乱が部分的に存在したが、他の遺構との重複関係はなかった。平面形態：概ね8.0m×6.7mの隅丸方形を呈している。主轴方位はN-0°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。カマド：検出されなかった。当初より設置されていなかった。床面の状況：中央部が比較的深く周辺部が浅い皿状を呈していた。床土を敷くなどの整形は施されていない。ピット：底面において1基のピットが確認された。浅い掘り込みで、用途などは判然としない。遺物出土状況：少量であるが、住居址の覆土上・中・下層から偏りなく出土した。すべて周辺からの流れ込みと判断された。柱穴：本住居址では主柱穴は確認できなかった。所見：この遺構は、床面及び壁面の整形が行われていないこと、カマドが設置されていないことなどから、建築途中で放棄された未成の住居址と判断した。遺物：図示する遺物は出土しなかった。時期：住居址の形態・出土遺物から古代の所産と思われるが、詳細は不明である。



第6図 1号住居址実測図

報告書抄録

ふりがな	まちよこおいせきさん
書名	町横尾遺跡Ⅲ
副書名	長野県埴科郡坂城町宅地造成に係る緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第39集
編著者名	助川 朋廣・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2012年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
町横尾遺跡Ⅲ	埴科郡坂城町大字南条	20521		36° 26' 32"	138° 11' 29"	2011年7月5日～ 2011年7月21日	131	坂城町土地開発公社による宅地造成事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町横尾遺跡Ⅲ	集落址	縄文～平安	竪穴住居址 1棟	土師器・須恵器・古銭・金属器	縄文～平安時代の集落址の調査

坂城町埋藏文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』(概報)	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊輪堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『成久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊輪堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山遺跡群 込山C遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山遺跡群 込山D遺跡Ⅰ』	2007
第29集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集	『南条遺跡群 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2007
第31集	『開畝遺跡Ⅳ』	2008
第32集	『町横尾遺跡Ⅱ』	2008
第33集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2007』	2008
第34集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅳ・Ⅴ』	2009
第35集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2008』	2009
第36集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅳ』	2010
第37集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2009』	2010
第38集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2010』	2011
第39集	『町横尾遺跡Ⅲ』(本書)	2012

坂城町埋藏文化財調査報告書第39集 町横尾遺跡Ⅲ

発行日	2012年3月30日
編集者	坂城町教育委員会 〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268 (82) 1109
印刷者	信毎書籍印刷株式会社 〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号 TEL 026 (243) 2105

